

# 奈良大学博物館所蔵の仏教板木

青 木 麻 佑 花\*

Buddhist Printing Blocks in the Nara University Museum

Mayuka AOKI

## 要 旨

書誌学・近世出版およびデジタル・アーカイブ等の研究分野で板木研究は促進しているが、文化財の研究分野は板木研究および「高野版板木」および「高野版スタンプ」に関し、十分な資料検討がされていくわけではない。そのため、奈良大学博物館所蔵の高野版板木に含まれる資料のうち「高野版スタンプ」として所蔵登録されているものに着目し、「高野版スタンプ」のうち63点について構造理解、彫字判読、法量、重量に関して調査し、法量分析や分類等の詳細な資料検討を行なった。結果、縦横および重量にはバラツキが見られ、使用方法から新たな大別や分類が可能となった。しかし、法量のみによる分析であるため、製造時期や技術集団との関係性など多角的な研究が必要である。

キーワード：高野版スタンプ、仏教板木、奈良大学博物館

## I はじめに

奈良大学博物館が所蔵している板木は約5,800点あり、そのうち約500点が高野山関係の板木である。この高野山関係の板木には高野山で使用されたと考えられる板木と、高野山に関係する寺院で使用された板木の両方が含まれている。本稿では、所蔵登録名の通り両方を合わせた板木を「高野版板木」と呼ぶことにする。高野版板木に含まれる資料のうち約120点が高野版スタンプとして所蔵登録されている。この高野版スタンプは、いわゆるスタンプのような使用方法のもの、板木の使用方法のものが存在するため、「高野版小型板木」と呼ぶことにする。

書誌学・近世出版およびデジタル・アーカイブ等の研究分野で板木研究は進んでいるなか、もとの研究、すなわち、形や機能、製作技法などに関する研究はあまり行なわれていない。また、高野版板木および高野版小型板木に関しても十分な資料検討が必要である。

そこで、本研究においては高野版板木に含まれる資料のうち「高野版スタンプ」として所蔵登録されているものに着目し、資料の詳細な検討を行なった。

## Ⅱ 仏教版画研究の意義について

板木とは木版印刷を行なうために文字や図様を彫刻した木の板のことであり、名所図や浮世絵、書籍の製作に用いられてきた。板木に関する既往の研究では、主として、板木そのものではなく板木によって生産された版本が研究対象となってきた。板木はその性質上、最初に製作され、利用される過程において摩滅が進むため、原型として残存することは極めて稀である。さらに、板木に使用される木材が貴重であったため、再利用されることも多く、最終的には調度品など、板木以外の製品に加工および焚火に使用されることもあった。概して、板木そのものに対する価値は必ずしも高く評価されず、美術工芸品として扱われることはほとんどなかった。このような理由から、新出資料として発見される板木は少なく、限られた資料内での比較検討が困難であるという問題があり、研究対象としにくい。特に、仏教版画など、特定の用途に限った資料の場合にはこうした問題がより顕著に表れるため、仏教版画を研究対象とする研究者も少なく、研究そのものは停滞しているのが現状である。

そうした板木研究あるいは仏教版画研究をとりまく背景もあって、これまで、奈良大学博物館所蔵の高野版板木も十分には研究されてこなかった。しかしながら、板木資料からは特定することができない技術的痕跡が残されているため、そうした技術的痕跡から板木が彫られた当時の技術的発達段階や分業体制をはじめとする組織的工房の研究に寄与できる可能性が含まれている。このような研究は、社会の歴史的過程を明らかにするために重要である。さらに、仏教版画に関しては技術的な変遷から、仏教を中心とした信仰の在り方や、時代によって異なる信仰形態の変化を推測し得る。

## Ⅲ 奈良大学博物館所蔵「高野版板木」について

高野版板木は『日本古典籍書誌学辞典』<sup>1)</sup>によると「高野山上で開板された版本。鎌倉時代にはじまり、断続的に江戸末期に及ぶ」とあり、また『日本仏教史辞典』<sup>2)</sup>では「鎌倉中期以降、高野山およびその門流寺院で出版された古版本の総称。(中略)現存物では建長5(1253)年快賢の『三教指帰』がもっとも古い。大半は鎌倉時代の開板であるが、江戸時代初期まで断続的に印刷された」とある。そして、高野版板木は6,045枚が重要文化財に指定されている。高野版板木には、大別すると快賢や法弁をはじめとする学侶系の板元による寺版と、行人系の板元による町版があり、奈良大学博物館の高野版板木は後者に該当する。

奈良大学博物館に所蔵されている高野版板木は約500点であり、その資料のうち約120点が小型板木であり、金子貴明(2013)によると「ほとんどは江戸時代の板木と思われ、かつて高野山の山上に存在していた板木が、ある段階で山外へ出たものと考えられる。まだ筆者の調査は十分とはいえないが、概要のみを記せば、経典・講式・法則・悉曇(声明)関係、伝記、図像など、内容は多岐にわたっている」とされ、元来、高野山上にあった板木が、おそらく第二次世界大戦後しばらく経過してから、古書籍商を経由して奈良大学博物館に収蔵されることとなったと推測し得る。高野版板木は博物館に収蔵されて以降、立命館アート・リサーチセンターとの共同研究を

通して、デジタル・アーカイブ化され、インターネットを通じて閲覧ができるようになっている。しかし、永井一彰（2000）や金子貴明（2013）等が研究対象としている程度であり、十分な資料検討がされているわけではない。

そこで、本研究では高野版板木に含まれる資料のうち高野版小型板木に着目し、資料の詳細な検討を行ない、そして板木の物理的な特徴に焦点を当て、仏教版画資料を検討することを目的とする。本稿においては、その基礎的な段階として資料調査を行った結果について報告する。

#### Ⅳ 高野版小型板木に関する資料調査

資料調査は2017年7月中旬から2か月間に亘って行ない、高野版板木に含まれる資料の約120点のうち奈良大学博物館の所蔵登録名「高野版スタンプ」63点について資料観察および調書の作成を行なった（表1）。

高野山関係の板木には高野山で使用されたと考えられる板木と、高野山に関係する寺院で使用された板木の両方が含まれており、分類は印・札・歛進・神道関係・血脈・聖教・その他がある。以下、各項目についてその概略を記し、なお、銘文中の／印は、原文の改行を示す。また、表1から表4の表内記号は、右端が△6-16、○17-26、◎27-37、厚みが△16-24、○25-33、◎34-43、横寸が△15-55、○56-96、◎97-135、縦寸が△38-149、○150-261、◎262-371、重さが△10-152、○153-259、◎260-437とし、厚みは縦幅の中央部分、右端は彫字された面の右上部分とする。

##### （1）印 11点

印章・火炎宝珠・宝珠・三つ盛り火炎宝珠・不動明王三鈷杵剣印があり、それぞれについて述べる（表2）。

印章〔003、007、017、018、042、043、044〕は7点あり、007だけが他とは異なる篆刻である（写真1）。それ以外の003、017、018、042、043、044は同じ篆刻であるが、どちらも篆刻の四方が切断されているため篆刻は判読不能である（写真2）。しかし、007の1文字が「寶」であると判読可能であるが、篆印でよく使用される「牛玉宝印」ではない。今後、高野山に関する印刷所（板木）での調査および印章の篆刻に対する研究が必要である。

宝珠に関するものは、火炎宝珠〔005〕、宝珠〔019〕、三弁宝珠〔010、068〕の4点がある（写真3）。これらは、護摩札にて使用されたと推測し得る。三弁宝珠（三弁火炎宝珠）〔010、068〕の2点は同様の表記ではない、使用条件により変更していたと推測し得る。

不動明王三鈷杵剣印〔078〕は、周囲に炎をめぐらし、その中央に持ち手が三鈷杵の剣を表し、御朱印などに使用したと推測し得る。

##### （2）歛進 4点

御尊影・曼陀羅・募縁記があり、それぞれについて述べる（表3）。

記念御尊影〔014〕は「記念御尊影」、弘法大師御尊影〔045〕には「弘法大師御尊影」の彫字が

表1 資料調査の全体データ

板No.	分類	名称	右端	厚さ	横寸	縦寸	重量	銘文
			(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(g)	
Kstamp003	印	印章	△	△	△	△	△	
Kstamp007	印	印章	△	△	○	△	△	
Kstamp017	印	印章	○	△	○	△	△	
Kstamp018	印	印章	○	△	○	△	△	
Kstamp042	印	印章	○	△	○	△	△	
Kstamp043	印	印章	○	△	○	△	△	
Kstamp044	印	印章	○	△	○	△	△	
Kstamp005	印	火炎宝珠	△	△	○	△	△	
Kstamp078	印	不動明王利剣	◎	◎	△	△	△	
Kstamp019	印	宝珠	△	△	○	△	△	
Kstamp010	印	三弁宝珠	△	△	△	△	△	
Kstamp068	印	三弁宝珠	△	△	○	△	△	記念御尊影
Kstamp014	欲進	記念御尊影	○	△	△	△	△	弘法大師御尊影
Kstamp045	欲進	弘法大師御尊影	○	△	△	△	△	遍昭薩埵行化曼陀羅
Kstamp030	欲進	遍昭薩埵行化曼陀羅	○	△	△	△	△	募縁記/高野山所縁坊/西門院
Kstamp087	欲進	募縁記	△	△	◎	○	◎	秘密血脈
Kstamp036	血脈	秘密血脈	○	△	△	△	△	高野山/五大力尊像/普賢院
Kstamp085	神道関係	五大力尊像	△	△	○	○	△	世に此一行阿闍梨之出行之日記有之/事越不知誤て悪日二出行いたし旅他國にて/危難に逢事ま、有之仍而今新に/其開板世二弘者也/南紀高野山/「一行阿闍梨出行最記」/經師久五郎
Kstamp041	聖教	一行阿闍梨出行最記	◎	○	◎	△	○	一金/右正二寺納仕候也/昭和 年 月 日
Kstamp080	その他	証	○	△	◎	△	△	穆留
Kstamp070	その他	穆留	○	△	△	△	△	受納證
Kstamp012	その他	受納証	○	△	△	△	△	經かたびら
Kstamp093	その他	經かたびら	○	△	◎	○	◎	經帷子
Kstamp094	その他	經帷子	△	△	○	○	◎	高野山 熊谷寺
Kstamp092	その他	熊谷寺	○	△	◎	△	△	高野山 熊谷寺
Kstamp013	その他	高野山豆腐	○	△	△	△	△	高野山豆腐
Kstamp088	その他	高野山豆腐	○	△	△	○	△	高野山豆腐
Kstamp047	その他	高野山豆腐	△	△	△	△	△	高野山豆腐
Kstamp023	その他	高野山豆腐	○	△	△	△	△	高野山豆腐
Kstamp035	その他	高野山豆腐	○	△	△	△	△	高野山豆腐
Kstamp072	その他	高野山豆腐	△	△	△	△	△	高野山豆腐
Kstamp050	その他	高野山豆腐	○	△	△	△	△	高野山豆腐
Kstamp031	その他	高野山豆腐	○	△	△	△	△	高野山豆腐
Kstamp073	その他	高野山豆腐	△	△	△	△	△	高野山豆腐
Kstamp048	その他	高野山豆腐	△	△	△	△	△	高野山豆腐
Kstamp074	その他	高野山豆腐	○	△	△	△	△	高野山豆腐
Kstamp024	その他	高野山豆腐	○	△	△	△	△	高野山豆腐
Kstamp075	その他	高野山豆腐	○	△	△	△	△	高野山豆腐
Kstamp046	その他	高野山豆腐	○	△	△	△	△	高野山豆腐
Kstamp022	その他	高野山豆腐	○	△	△	△	△	高野山豆腐
Kstamp040	その他	高野山豆腐	○	△	△	△	△	高野山豆腐
Kstamp039	その他	高野山豆腐	△	△	○	△	△	高野山豆腐
Kstamp034	札	高野山豆腐	○	△	△	○	△	高野山豆腐
Kstamp102	札	高野山豆腐	△	△	○	○	○	高野山豆腐
Kstamp025	札	高野山豆腐	○	△	△	△	△	高野山豆腐
Kstamp026	札	高野山豆腐	○	△	△	△	△	高野山豆腐
Kstamp027	札	高野山豆腐	○	△	△	○	△	高野山豆腐
Kstamp032	札	高野山豆腐	○	△	△	△	△	高野山豆腐
Kstamp033	札	高野山豆腐	○	△	△	△	△	高野山豆腐
Kstamp028	札	高野山豆腐	○	△	△	○	△	高野山豆腐
Kstamp037	札	高野山豆腐	○	△	△	△	△	高野山豆腐
Kstamp038	札	高野山豆腐	○	△	△	△	△	高野山豆腐
Kstamp049	札	高野山豆腐	△	△	△	△	△	高野山豆腐
Kstamp089	札	高野山豆腐	○	△	△	○	○	高野山豆腐
Kstamp099	札	高野山豆腐	○	△	○	◎	◎	高野山豆腐
Kstamp083	札	高野山豆腐	△	△	○	○	△	高野山豆腐
Kstamp096	札	高野山豆腐	△	△	○	◎	○	高野山豆腐
Kstamp029	札	高野山豆腐	△	△	△	○	△	高野山豆腐
Kstamp084	札	高野山豆腐	△	△	○	○	△	高野山豆腐
Kstamp098	札	高野山豆腐	△	△	○	◎	◎	高野山豆腐
Kstamp100	札	高野山豆腐	△	△	○	◎	◎	高野山豆腐
Kstamp101	札	高野山豆腐	○	△	○	◎	◎	高野山豆腐
Kstamp103	札	高野山豆腐	△	△	○	◎	◎	高野山豆腐

注) 表内記号は各法量を3分類し、降順は△、○、◎とする。なお、銘文中の/印は、原文の改行を示す。

表2 「印」分類表

板木No.	分類	名 称	右端	厚さ	横寸	縦寸	重量
			(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(g)
Kstamp003	印	印章	△	△	△	△	△
Kstamp005	印	火炎宝珠	△	△	○	△	△
Kstamp007	印	印章	△	△	○	△	△
Kstamp010	印	三弁宝珠	△	△	△	△	△
Kstamp019	印	宝珠	△	△	○	△	△
Kstamp068	印	三弁宝珠	△	△	○	△	△
Kstamp017	印	印章	○	△	○	△	△
Kstamp018	印	印章	○	△	○	△	△
Kstamp042	印	印章	○	△	○	△	△
Kstamp043	印	印章	○	△	○	△	△
Kstamp044	印	印章	○	△	○	△	△
Kstamp078	印	不動明王利剣	◎	◎	△	△	△

注) 表内記号は各法量を3分類し、降順は△、○、◎とする。なお、銘文中の／印は、原文の改行を示す。



写真1 印章 [007]

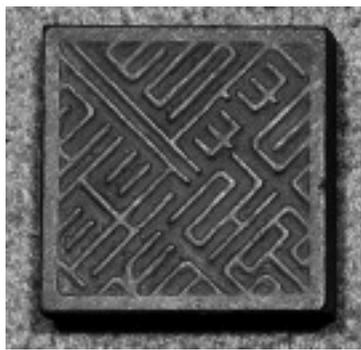


写真2 印章 [042]



写真3 火炎宝珠 [005]

ある(写真4)。室町時代末期には弘法大師絵伝が開板され、制作目的は量産だが、中世前期と後期では同板木であっても開板における仏教的意味合いが異なるため<sup>4)</sup>、弘法大師に関する記念行事で使用されたと推測し得るが、詳細な使用方法については今後の調査研究が必要である。

遍昭薩埵行化曼陀羅〔030〕は「遍昭薩埵行化曼陀羅」、募縁記〔087〕は「募縁記/高野山所縁坊/西門院」の彫字がある。本研究では西門院に関して、募縁記〔087〕だけが存在することが判明した。

### (3) 神道関係 1点

五大力尊像〔085〕は、「高野山/五大力尊像/普賢院」の彫字があり、本研究では普賢院に関して、大般若經寶牘〔099〕の2点だけが存在することが判明し、両方の彫字に関する検討は今後の調査研究で行なう(表3)。

(4) 血脈 1点

秘密血脈〔036〕は、「秘密血脈」の彫字がある。『新装版 仏教儀礼辞典』<sup>5)</sup>によると「師から弟子に法門を相承することを、親から子に肉身の血脈が相連なって絶えないのに喩えて用いている」とあり、密教では血脈が重要視されることから、高野山での秘密血脈に対する重要性はいうに事欠かない。しかし、本稿では秘密血脈に関する既往の研究まで確認することができなかったため、今後も調査研究を行なう(表3)。

(5) 聖教 1点

一行阿闍梨出行最記〔041〕は、「世に此一行阿闍梨之出行之日記有之/事越不知誤て悪日二出行いたし旅他國にて/危難に逢事ま、有之仍而今新に/其開板世二弘者也/南紀高野山/「一行阿闍梨出行最記」/經師久五郎」の彫字がある(写真5)。

「一行阿闍梨の出行」という日記について再び、世間に広めることを目的として製作された板木であることが推測し得る。また、悪日に旅をして危難に遭うことを記すことにより、「一行阿闍梨の出行」に関して信憑性を増す効果がある(表3)。

表3 「歛進・神道関係・血脈・聖教」分類表

板木No.	分類	名称	右端	厚さ	横寸	縦寸	重量
			(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(g)
Kstamp087	歛進	募縁記	△	△	◎	○	◎
Kstamp014	歛進	記念御尊影	○	△	△	△	△
Kstamp030	歛進	遍昭薩埵行化曼陀羅	○	△	△	△	△
Kstamp045	歛進	弘法大師御尊影	○	△	△	△	△
Kstamp085	神道関係	五大力尊像	△	△	○	○	△
Kstamp036	血脈	秘密血脈	○	△	△	△	△
Kstamp041	聖教	一行阿闍梨出行最記	◎	○	◎	△	○

注) 表内記号は各法量を3分類し、降順は△、○、◎とする。なお、銘文中の/印は、原文の改行を示す。



写真4 記念御尊影 [014]

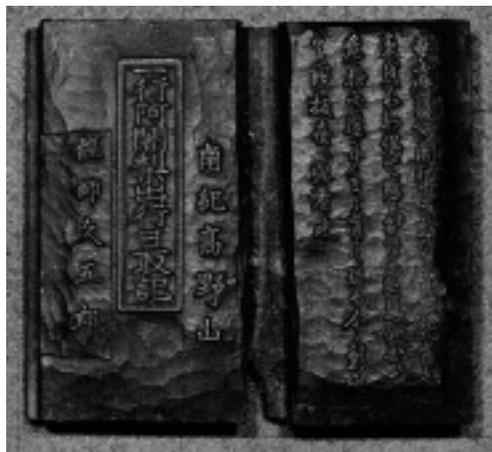


写真5 一行阿闍梨出行最記図 [041]

(6) 札 21点

祈禱札・日牌・準日牌・月牌・御祈禱寶牘・大般若經寶牘・御衣切・九重守・矢炮 劔難/消除御守・金毘羅御守・法印があり、それぞれについて述べる(表4)。

祈禱札〔028〕・御祈禱寶牘〔034〕は「浄國山/御祈禱寶牘 金光山」の彫字があり、金光山での護摩供や法会などで使用したのであろう。

日牌證文〔029〕は「高野山/日牌證文 寶龜院」、日牌之契證〔084〕「日牌之契證/施主」、〔103〕「高野山小坂坊/日牌之契證 持明院/功德主」、日牌之證文〔098〕「高野山往生院谷/日牌之證文 地藏院」の彫字がある。月牌支證〔083〕は「高野山/月牌支證 大樂院/檀主」の彫字があり、月牌之證文〔096〕は「高野山/月牌之證文 三寶院/施主」の彫字がある。日牌は毎日故人の供養を行なうこと、月牌は毎月の忌日に故人の供養を行なうことを指す。準日牌〔089〕は「準日牌之證文/右靈牌毎日之尊饗成三菩提/廻向永至龍華之春而已」の彫字がある。準日牌はその日、一日故人の供養を行なうことを指す。準月牌はその月、一月故人の供養を行なうことを指す。寺院に日牌・月牌などを依頼する際、実際の位牌を立てる方法、紙位牌という位牌を印刷した紙証文に戒名を記して寺院に預けることも可能であった。戒名だけを入れる様式も見られるが、年月日を入れる様式もあり、改元によって年号が変化すれば、入木を用いて年号を差し替えて板木を継続的に使用することができた。

大般若經寶牘〔099〕は「高野山/大般若經寶牘 普賢院」の彫字がある。御衣切〔025〕は「弘法大師 高野山御衣寺/御衣切 寶龜院」、〔026〕は「弘法大師 高野山金剛峯寺/御衣切 奥之院」、〔027〕は「弘法大師 高野山金剛峯寺/御衣切 奥之院」、〔032〕は「弘法大師 高野山金剛峯寺/御衣切 奥之院」、〔033〕は「弘法大師 高野山金剛峯寺/御衣切 奥之院」、〔102〕「高野山/弘法大師御衣 寶龜院」の彫字がある。御衣切という行事が、奥ノ院と寶龜院で行なわれていたこと、また小型板木数が多いことから民衆に関する定期的な行事であったことが推測し得る。

九重守〔037〕は、「九重守」の彫字があり(写真6)、江戸時代以降に流布したとされ、六十六部の御守や道中安全の守護牘として浸透した。奈良県で開板されたものであり、一種のお守りとされており密教で信仰される諸仏や真言の種子を記したもの<sup>6)</sup>。彫字が入木になっており、他のお守り等と差し替えて継続的に使用していたと考える。

消除御守〔038〕は「矢炮 劔難/消除御守」の彫字があり、金毘羅御守〔049〕は「金毘羅御守」の彫字がある。法印〔100〕は「年月日 院法印覺明/施主」、〔101〕は「高野山準別格本山 年月日 院法印 施主」の彫字があり、院法印の下部に入木があることから名を差し替えて継続的に使用していたのであろう。

(7) その他

受納證・証、經帷子、寺名・寺院名・部屋名、高野冰豆腐、施主・執事、戒牒、誓水器、僧名・年月が存在する(表5)。

受納證〔012〕は「受納證」、証〔080〕は「一金/右正ニ寺納仕候也/昭和 年 月 日」の彫字があり、「昭和」の入木が確認できることから、これらの板木が昭和に入ってから高野山上で管理され、使用されていたことを示す。

表4 「札」分類表

板木No.	分類	名 称	右端	厚さ	横寸	縦寸	重量
			(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(g)
Kstamp034	札	御祈禱寶牘	○	△	△	○	△
Kstamp102	札	御衣	△	△	○	○	○
Kstamp025	札	御衣切	○	△	△	△	△
Kstamp026	札	御衣切	○	△	△	○	△
Kstamp027	札	御衣切	○	△	△	○	△
Kstamp032	札	御衣切	○	△	△	△	△
Kstamp033	札	御衣切	○	△	△	○	△
Kstamp028	札	祈禱札	○	△	△	○	△
Kstamp037	札	九重守	○	△	△	△	△
Kstamp038	札	消除御守	○	△	△	△	△
Kstamp049	札	金毘羅御守	△	△	△	△	△
Kstamp089	札	準日牌之證文	○	△	△	○	○
Kstamp099	札	大般若經寶牘	○	△	○	◎	◎
Kstamp083	札	月牌支證	△	△	○	○	△
Kstamp096	札	月牌之證文	△	△	○	◎	○
Kstamp029	札	日牌證文	△	△	△	○	△
Kstamp084	札	日牌之契證	△	△	○	○	○
Kstamp098	札	日牌之證文	△	△	○	◎	◎
Kstamp100	札	法印	△	△	○	◎	○
Kstamp101	札	法印	○	△	○	◎	◎
Kstamp103	札	日牌之契證	△	△	○	◎	◎

注) 表内記号は各法量を3分類し、降順は△、○、◎  
 なお、銘文中の/印は、原文の改行を示す。



写真6 九重守 [037]

經帷子〔093〕は「經かたびら」、〔094〕「經帷子」の彫字があり、仏式で死者を葬る時に死者に着せる着物のことを表すことから、葬式等が行なわれていたのであろう。

寺名は、金剛峯寺〔023〕が「金剛峯寺」、真言寺〔050〕が「真言寺」、熊谷寺〔092〕が「高野山 熊谷寺」と彫字されている。真言寺〔050〕は、言と寺の間に一直線の断絶痕らしきものがあり注意が必要である（写真7）。

寺院名は蓮華院〔022〕が「高野山/蓮華院」、西南院〔031〕が「西南院」、大円院〔039〕が「高野山/大円院」、蓮華定院〔040〕が「蓮華定院」、西南院〔073〕が「和歌山縣高野山/準別格本山 西南院」、多賀川尻〔074〕が「多賀川尻」と彫字されている。高野山ですべて使用したと限らず、高野山の関係寺院のものを含む。

部屋名は西室〔075〕が「西室」、高野山大師教会本部〔088〕が「高野山大師教会本部」と彫字されている。一過性の使用も考えられるが、今後、小型版板木の整形についての調査研究で検討を行なう。

高野氷豆腐〔013〕は「高野氷豆腐」の彫字があり（写真8）、仏前などで供えられる仏餽に関する板木である。高野豆腐を氷豆腐と称し、高野山で作成された氷豆腐のことを示し、氷豆腐は弘法大師が作ったとされている。この小型板木があることから、高野山で氷豆腐が使用されたことを推測し得る。

施主〔048〕は「施主」、執事〔047〕は「高野山別格本山/金剛三昧院/執事」の彫字がある。戒牒〔046〕は、「菩薩戒牒」の彫字があり、『日本仏教語辞典』<sup>7)</sup>によると戒牒は「正式に受戒を終わり、一人前の僧になったことを証明する公文書。僧侶受戒の証明書。(中略)菩薩僧となし、その戒牒には官印を請はん」とされている。

誓水器〔024〕は、「誓水器」と彫字がある。誓水とは『密教大辞典 縮刷版』<sup>8)</sup>で「金剛水、また一髻尊陀羅尼經には金剛誓水と云ふ。三昧耶戒壇に於て弟子に飲ましむる浄香水なり。(中略)不動・降三世或は金剛軍荼利の真言を以て加持して受者に飲ましむ」とされ、

僧名〔070〕は「穆韶」と彫字され、『日本仏家人名辞書』<sup>9)</sup>によると穆韶は「金山穆韶。高野山天徳院住職、高野山宝寿院門主を経る」とあることから、この僧名は入木として使用していた(写真9)。

年月〔072〕は「昭和/月」の彫字がある(写真10)。年月日を入れる様式もあり、改元によって年号が変化すれば、入木を用いて年号を差し替えて板木を継続的に使用することができた。

表5 「その他」分類表の名称順

板木No.	分類	名 称	右端	厚さ	横寸	縦寸	重量
			(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(g)
Kstamp012	その他	受納証	○	△	△	△	△
Kstamp093	その他	經かたびら	○	△	◎	○	◎
Kstamp094	その他	經帷子	△	△	○	○	◎
Kstamp092	その他	熊谷寺	○	△	◎	△	△
Kstamp013	その他	高野冰豆腐	○	△	△	△	△
Kstamp088	その他	高野山大師教会本部	○	△	△	○	△
Kstamp047	その他	金剛三昧院 執事	△	△	△	△	△
Kstamp023	その他	金剛峯寺	○	△	△	△	△
Kstamp035	その他	準別格本山	○	△	△	△	△
Kstamp072	その他	昭和 月	△	△	△	△	△
Kstamp050	その他	真言寺	○	△	△	△	△
Kstamp031	その他	西南院	○	△	△	△	△
Kstamp073	その他	西南院	△	△	△	△	△
Kstamp048	その他	施主	△	△	△	△	△
Kstamp074	その他	多賀川尻	○	△	△	△	△
Kstamp024	その他	誓水器	○	△	△	△	△
Kstamp075	その他	西室	○	△	△	△	△
Kstamp046	その他	菩薩戒牒	○	△	△	△	△
Kstamp022	その他	蓮華院	○	△	△	△	△
Kstamp040	その他	蓮華定院	○	△	△	△	△
Kstamp039	その他	大円院	△	△	○	△	△

注) 表内記号は各法量を4分類し、降順は△、○、◎とする。なお、銘文中の/印は、原文の改行を示す。



写真7 真言寺 [050]



写真8 高野氷豆腐 [013]



写真9 昭和月 [070]



写真10 昭和月 [075]

## V 考察

奈良大学博物館に所蔵されている高野版板木は約500点であり、その資料のうち約120点が小型板木である。この小型板木は、使用方法上、(A)捺印式と(B)摺写式の二つに大別される。まず、(A)はいわゆるスタンプのように、板木を手を持ち、墨をつけて紙に印捺して使用する。この形態の板木は、場所を選ばずに印捺が可能であるため機動性に富んでいることが大きな特徴であり、この種の板木で印捺された仏教版画(仏像を表現したもの)を印仏とよぶ。一方、(B)はいわゆる木版画であり、板木に墨をつけ、板木の上に紙を置いて摺写したと考えられている。この種の板木が用いられて摺られた仏教版画は摺仏と呼ばれる。

法量を分析してみた結果、資料全体の散布図から縦横および重量にバラツキが見られた(図1)。ただし、横幅と縦幅が大きくなるほど重量も増加するため、多変量で検討する際には重量を除いた方が良いと考えられる。縦横の散布図から三つに大別されることが判明したが(図2)、種別の内訳まで見ることはできなかったため、今後の調査研究が必要である。

厚みは、(ア)23.0mm以下、(イ)23.0mm以上、(ウ)30.0mm以上の三つに大別することができ、(ア)は26点、(イ)は35点、(ウ)は[041][078]の2点だけである(図3)。23.0mm以上の小型板木が過半数を占めることから高野版スタンプを高野版小型板木と称しても良いと考える。また、右端は(甲)18.3mm以下、(乙)18.3mm以上、(丙)30.0mm以上の三つに大別することができ(図3)、(甲)は23点、(乙)は38点、(丙)は[041][078]の2点だけである。中央値が右端は23.0mm、厚みは18.3mmことから、元来、右端の法量が板木の厚みとして示されていると推測し得る。

この分析は、あくまで、法量のみによる分析であるため、製造時期や技術集団との関係性など、多角的な検討が必要である。内田啓一(2011)は、「技術面が異なることから制作目的・信仰形態が異なることが考えられる」とある。このことから今後は製作時期に注目し、制作目的・信仰形態の検討も必要である。

文化財的価値として、板木の技術的発達段階や機能性、寺院の動向や庶民の信仰など、仏教信

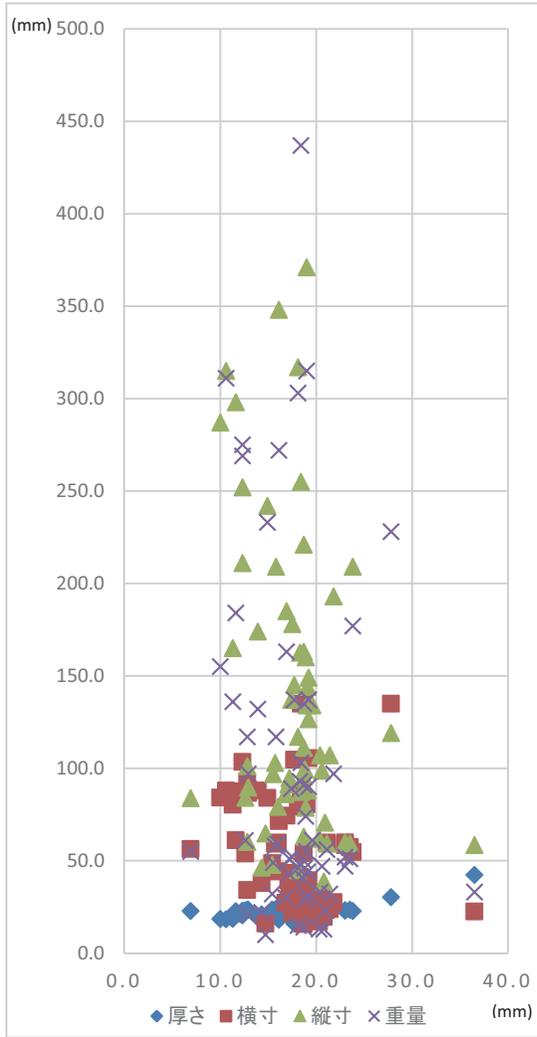


図1 資料全体の散布図

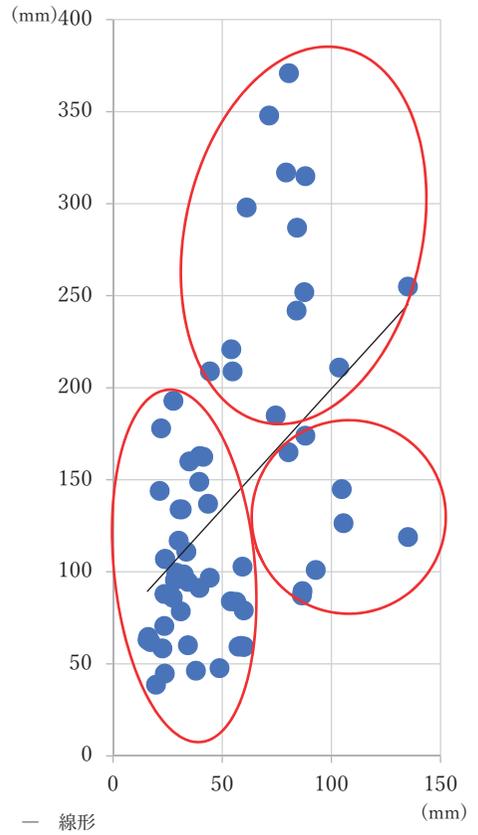


図2 縦横の散布図

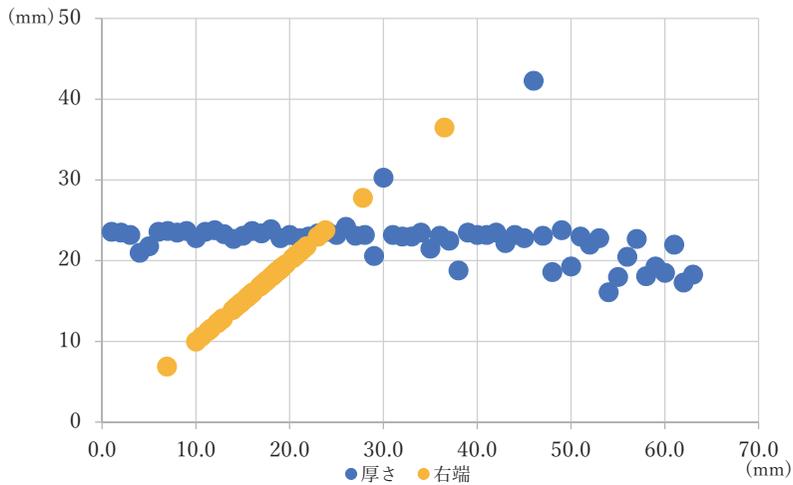


図3 厚さと右端の散布図

仰および神道信仰形態の変化を推測し得る。商業出版が隆盛する江戸時代以前の寺院における経典・仏書の刊行、印仏・摺仏の製作などの研究に寄与できるであろう。さらに、一般市民・社会の歴史的過程と、板木の技術的発展や隆盛の相互関係を示す資料としても文化財的価値を見いだせる。

## VI おわりに

奈良大学博物館が所蔵している高野版小型板木に着目し、資料の詳細な検討を行ない、文化財的価値について述べた。本調査および本稿は高野版小型板木に関する基礎的研究であり、調査成果としては、高野版小型板木の彫字判読、法量・重量の調査、考古学的手法から各分類に対し、縦横比や厚さ・右端などの分析を行なった。これら調査成果から新たな高野版小型板木の提示を文化財的視点から挙げる。

広義の高野版板木に関する研究は初期段階であると言える。書誌学的には狭義の高野版の影響下にあるはずであるが、むしろその影響が及んだのが大覚寺と智積院だけであつたはずはなく、市井の板元の出版物をも合わせて、今後はより広範な視野で臨まねばならないだろう<sup>3)</sup>とされているように、高野版自体の研究を進めるとともにスタンプ型に関する研究を促進していく必要がある。

今後の展望としては、調査研究の対象数を増やすことにより分析データの細密性をあげ、大まかではあるが製作時期の特定を行ない、保存科学的手法や情報工学的手法を用い、高野版スタンプに関する新たな調査成果や解明と理解を示すことができる。

なお、奈良大学博物館の板木の殆どは、立命館アート・リサーチセンターとの共同研究によりデータベース化され、インターネットを通じて図版の閲覧が可能である。

掲載画像、奈良大学博物館および図書館所蔵板木の画像に関しては「板木閲覧システム」(<http://arc.ritsumei.ac.jp/db9/hangi/>)で検索されたい。

## 謝 辞

調査研究と本稿の作成にあたり、適宜ご指導いただきました、小林青樹教授(奈良大学)に深く感謝の意を表します。高野山について懇親なご指導をいただきました、長嶋公円大僧都(高野山)に深く感謝の意を表します。

調査研究するにあたり、安藤真理子、清水宏至から多大なご協力とご助言がありましたので、ここに感謝の意を表します。

## 注

- 1) 太田次男1999「高野版」『日本古典籍書誌学辞典』岩波書店
- 2) 大野達之助編1979「高野版」『日本仏教史辞典』東京堂出版

- 3) 金子貴明2013『近世出版の板木研究』株式会社法藏館
- 4) 内田啓一2011『日本仏教版画史論考』株式会社法藏館
- 5) 藤井正雄2001「血脈」『新装版 仏教儀礼辞典』東京堂出版
- 6) 真鍋俊照2001「仏教版画とその図像展開」『密教図像と儀軌の研究 下巻』法藏館
- 7) 岩本裕1988「戒牒」『日本仏教語辞典』平凡社
- 8) 密教辞典編集会編1984「誓水」『密教大辞典 縮刷版』法藏館
- 9) 鷲尾順敬編1996「穆韶」『日本仏家人名辞書』

## 参考文献

- 太田次男1999「高野版」『日本古典籍書誌学辞典』岩波書店  
大野達之助編1979「高野版」『日本仏教史辞典』東京堂出版  
金子貴明2013『近世出版の板木研究』株式会社法藏館  
内田啓一2011『日本仏教版画史論考』株式会社法藏館  
藤井正雄2001「血脈」『新装版 仏教儀礼辞典』東京堂出版  
真鍋俊照2001「仏教版画とその図像展開」『密教図像と儀軌の研究 下巻』法藏館  
岩本裕1988「戒牒」『日本仏教語辞典』平凡社  
密教辞典編集会編1984「誓水」『密教大辞典 縮刷版』法藏館  
鷲尾順敬編1996「穆韶」『日本仏家人名辞書』  
(財)元興寺文化財研究所1999『豊山長谷寺拾遺 第二輯 版木』総本山長谷寺文化財等保存調査委員会  
(財)元興寺文化財研究所2001『(財)大和文化財保存会援助事業による 寶山寺の版木』  
(財)元興寺文化財研究所2009『(財)大和文化財保存会援助事業による 金剛寺の版木』  
(財)元興寺文化財研究所2012『(財)大和文化財保存会援助事業による 室生寺の版木』  
永井一彰2013『奈良大学博物館企画展 板木さまざま－芭蕉・蕪村・秋成・一茶も勢ぞろい－』奈良大学博物館  
永井一彰2014『板木は語る』笠間書院  
松長有慶・高木神元・和田秀乗・田村隆照『法藏選書 高野山 その歴史と文化』法藏館

## Summary

### 「Buddhist Printing Blocks in the Nara University Museum」

Research on Buddhist printing blocks has been conducted in the areas of bibliography, modern publication and digital archiving, with a focus on historical meaning and categorization. However, analysis from the field of Cultural Properties Science including physical observation, interpretation and preservation remains insufficient.

This thesis addresses the issue through the study of Kouya buddhist printing blocks which are stored in the Nara University Museum. Specifically, the author has studied one group, the 63 stamp-type Kouya printing blocks, focusing on their structure, size and engraved characters.

Through the appropriate application of cultural property methodologies, variations in length, breadth, weight and types of engraved characters were observed. Since this analysis was based solely on the dimensions of the stamps, the relationship of these findings to the dates when they were produced as well as the specific groups who produced them remain to be investigated.

**Key word** : Kouya buddhist printing blocks, Buddhist printing blocks, Nara University Museum